



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会

児童相談所における児童買春、 児童ポルノ被害児童への対応状況に関する報告

講師： 赤嶺 恵理（杏林大学専任講師）

講師： 武子 愛（NPO 法人ライトハウス）

- 日時：2017年1月28日（土）18時～20時（17時30分 受付開始）
- 会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル26号館5階
（東京メトロ日比谷線築地駅2番出口 1階にソフトバンクが入っているビルです）
- 参加費：会員1,000円 非会員2,000円 学生500円（当日受付でお支払いください）
- 参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局までメールでお申送ください。
e-mail pwash@ellesnet.co.jp

「児童相談所における児童買春・児童ポルノ被害児童への対応状況に関する調査研究（調査主体：NPO 法人ライトハウス）」研究会では平成27年度に厚生労働省から助成を受け、児童相談所における児童買春、児童ポルノ被害児童への対応状況について、全国の児童福祉司約2800名を対象にアンケート調査および事例に対応していた児童福祉司にヒアリング調査を行いました。

アンケート調査では、児童買春被害、児童ポルノ被害を受けた児童本人に複合的な課題があり、さらに児童の生活環境においても複数の困難を抱えている状況が明らかになりました。また、ヒアリング調査では児童買春、児童ポルノ被害への対応は児童相談所によって多様であること、厚生労働省福祉行政報告例調査の「児童買春等被害相談」に計上したケースであってもその被害は児童買春、児童ポルノだけでなく性に関わる課題が多様にあったことが明らかになりました。

本発表では研究成果の共有にとどまらず、児童買春、児童ポルノ被害とはなにか、被害に対して何ができるかを議論できたらと考えております。

【講師プロフィール】

※赤嶺恵理

立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科博士前期課程修了。社会福祉士。専門領域は社会福祉、研究テーマは子どもの性的搾取、人身取引。勤務の傍ら、NPO 法人ライトハウスにてソーシャルワークを行う。もともと東南アジアにおける人身取引の問題やタイにおけるマイノリティに関心があり、学生時代よりタイのNGOでボランティアや調査を行ってきた。2008年のCSEC ジャパンフォーラムの活動を契機に、日本における子どもの性的搾取の問題をテーマに研究に取り組んでいる。

※武子 愛

1977年生まれ。2016年3月淑徳大学大学院総合社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士後期課程満期退学。人間総合科学大学非常勤講師。社会福祉士。「知的障害者の性」をテーマに研究をする傍ら、NPO 法人ライトハウスにてソーシャルワークを行っている。発表論文に「知的障害者の性を社会福祉として支援するということ」（2014年）、「知的障害の子をもつ保護者／施設職員の性教育への意識—その差異と関係性」（2013年、共に『淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要』）。「性と健康を考える女性専門家の会」副会長、NPO 法人あゆみの里幹事。現在、大阪府立大学人間社会システム科学研究科社会福祉学専攻博士後期課程在籍。